

防衛大学校本科第23期学生及び理工学研究科第16期学生 卒業式における学校長式辞（昭和54年3月18日）

防衛大学校本科第23期学生及び理工学研究科第16期学生は、本日をもって所定の教育訓練並びに研究の全課程を終了し、4年あるいは2年の小原台生活に別れを告げることとなりました。特に本科学生諸君におかれては、今を去る4年前の昭和50年の春4月、校門をぐぐったあの日を思い出し、感慨無量なるものがあると存じます。ここに卒業式を挙げるに当たりまして、卒業生諸君全員に対し、まず心からお祝いを申し上げます。



第4代学校長 土田 國保

本日、この栄ある式典に、国務御多端の折柄、御臨席を賜りました大平内閣総理大臣^{注(1)}、山下防衛庁長官^{注(2)}をはじめとする内外多数の来賓各位に対し、衷心より厚くお礼申し上げます。更に、卒業に至るまで歴代の防衛関係機関の最高幹部をはじめとする各位、官民の諸機関及び有志の方々、並びに在日各国大使館付武官等各方面よりいただきました御指導、御支援、御激励に対しまして、併せて厚くお礼申し上げるものであります。また本校にあって、大学教育の任に当たられた教授、助教授、講師をはじめ、日夜を問わず直接訓練指導の任に当たり、あるいは校務に精励せられた自衛官及び職員の各位に対しましても、改めて深甚なる謝意を表する次第であります。更にまた、本日、遠路はるばるこの式典に御参列いただきました御父兄をはじめ卒業生の御家族に対しましても、その御援助に深く感謝するところでありまして、ここに御子弟の成業を心からお祝い申し上げますとともに、栄ある今日の巢立ちに、さぞお喜びのこととお察し申し上げます次第でございます。

本科卒業生諸君、申すまでもなく、防衛大学校教育の目的は、将来の

注(1) 大平正芳

注(2) 山下元利

日本国防衛の根幹を担う幹部自衛官の養成にあるのでありますが、内容的にこれを一言で申すならば「真の武人にして紳士たる人材の育成」にあるのであります。このため諸君は、過去4年間の貴重な青春時代のすべてを捧げて、厳正な規律のもと、団体行動による生活の鍛練、大学設置基準に則った学問の履修、そして防衛任務達成に必要な勉学と訓練に励んで来たのであります。そして諸君のほとんどすべては、今日の卒業とともに、各自衛隊の幹部候補生学校に進んでゆくのでありますが、諸君は、いよいよこれから過去4年間の蓄積を伸展させて、幹部としての器量を培い、あらゆる事態に対処し得る必要な能力を身につける、まさにそのスタートラインに立っていると申すべきでありましょう。

まず諸君は、何よりも今後、人間として自らを更に深めてゆく修養努力を怠ってはならないのであります。自衛隊幹部として、将来多数の部下を指揮統率するためには、己れ自身を磨いてゆくことの外に途はありません。部下の心に喰い込み、その人間性を把握し、人情の機微を理解することは、決して容易ではありませんが、諸君は、いままさにそれを求められているのであります。どうか広く心を開いて、先達の言葉に耳を傾け、しかも軽々しく己れを許さない自制の心をもって、謙虚にそして着実に、自衛隊の「落ちついた中核」になって欲しいのであります。これから直面する危険や困難は、もったいないほどの自己試練の場だと感ずるくらいの積極心、報酬や反対給付を期待することなく、ひたむきに我が愛するもののために献身してゆくその姿勢、部下はこうした姿を見てついてくるものと確信いたします。

第二に、諸君にとって大学の教育とは、知識を学ぶ上の最終コースではなく、生涯教育のスタートであるということであり、諸君のこれから進む幹部候補生学校の課程は、自衛官教育の専門課程であり、更にその後のコースも専門化の度を高めてゆくであろうと考えますが、何よりも大切なのは幅広く奥行の深い学問、学識であります。大学卒業生が大学卒業生たる所以もここにあります。学問への郷愁は、学者・専門家だけのものではありません。配置や任務の関係上、それぞれ当面の仕事に忙殺されることは当然のことながら、理工系・人社系を問わず、どうか今後とも機会を捉えて研学の門に入り、あるいは寸暇を割いて自己研修に励んでいただきたいのであります。

第三に、諸君はこの4年間、防衛の第一線に立つ自らを鍛えるため、肉体、精神の限界に挑んで、文字どおり汗を流して来られたのでありますが、今後、何を選ぶかは別としても、心身の鍛練は中断することなく

続けていただきたいのであります。小原台の校友会活動が一生の思い出であることは、先輩諸氏からひとしく耳にするところであります。ともに汗と涙を流し、生涯をかけての交わりを結ぶに至る楽しく美しい青春の思い出そのものの尊いことは当然であります。今後とも、いつ、いかなる状況に遭遇しても、最良のコンディションをもって最後まで粘り抜くことの出来るよう、不断の錬磨を続ける心掛けを忘れぬようにしていただきたいのであります。また文化部系諸活動を通して培われた情操・センスを将来にわたって大切にし、実り多き人生を一段と豊かに送られるよう切望するものであります。

次に、理工学研究科卒業生諸君に対し一言申し述べます。諸君は、幹部自衛官として必要な資質の涵養、なかんずくそれぞれの分野における高度の専門的知識技能を修得すべく、貴重な2年の歳月を本校において過ごされたのであります。申すまでもなく、現在、世界各国はそれぞれ防衛上の必要から、新しい科学技術の開発改良に努力を傾注し、文字どおり日進月歩の状況にあります。いささかの油断があれば取り返しのつかぬ落伍者となるこの世界の厳しい現実の中で、ただでさえ立ち遅れがちな我が国の防衛科学技術は、将来とも大いに向上努力を要するところであります。どうか今後とも研鑽に努められ、自衛隊の科学技術分野の発展のため、ますます尽力されんことを切望いたす次第であります。

祖国日本は、あくまで日本国民が護り抜くべきものであります。この祖国防衛のため、志を立て、艱苦を恐れず、他にさきがけて挺身せられんとする卒業生諸君、諸君の一人一人こそまさに国の宝と申さねばなりません。ここに改めて深甚なる敬意を表しますとともに、一層の自重を願ってやまないものであります。

最後に少数ながら、本校卒業後、他の人生コースを歩もうとする諸君に申し上げます。諸君はあるいは健康上の理由から、あるいは家庭の事情等から、民間その他で活動する途を選ばれたのであります。自衛隊幹部養成を本旨とする本校として、諸君がその素志を遂げられぬのは残念でありますけれども、この小原台の4年間にわたる青春の思い出は、諸君にとっても永久に忘れることはないでありましょう。我が国の防衛は、広く国民的基盤に立ち、国民とともに歩むべきものであります。将来いかなる途を歩まれるにしても、この防衛大学校の貴重なる勉学と体験とを踏まえて、ともに手を携えて我が国の安全と発展、国民生活の幸福のために進もうではありませんか。

最後に、重ねて卒業生諸君の御健康と今後の御健闘を心から祈念いた

し、以上をもちまして式辞といたします。